

河北瀉湖沼研究所通信

Vol.6 No.3

河北瀉湖沼研究所の2001年カレンダーができました



河北瀉湖沼研究所では2001年カレンダー「四季の河北瀉」を600部作成しました。一部800円で販売したほか、友の会の会員などに配布しました。前回の「通信」でもお知らせしましたが、この企画は熊倉雅彦さん、野村卓之さんの2人のアマチュアカメラマンのご協力のもとで実施することができました。今回、仕事の合間に新潟から何度も河北瀉に足を運んで、撮影を続けてくれた熊倉雅彦さんに「レンズを通して観た河北瀉」という題で河北瀉の風景に対して感じたことなどを書いていただきました(2p)。

今回のカレンダーは大変好評で、「これまで河北瀉には汚いイメージしか持っていなかった。こんなすばらしい風景があるなんて河北瀉を見直すきっかけになった(印刷業Mさん)」といった意見や、「私は河北瀉の風景が好きで、広々とした河北瀉に来るのが楽しい。是非来年もカレ

ンダーをつくってほしい(花卉販売業Tさん)」、「写真がどれも色彩豊かで美しい。自分も河北瀉に出かけて写真を撮ってみたい(自営業Kさん)」、「適当な大きさで持ち運ぶこともでき、メモを書き込むこともでき使いやすい(大学教員Nさん)」などの意見が寄せられています。

カレンダーの販売には、多くの方の協力をいただきました。また、カレンダーを購入いただいた方々と新たにつながりをもつことができました。こうしてこの取り組みを通じて、新たなネットワークをつくることができました。

また今回は、インターネットのホームページでカレンダーの専用のコーナーをつくり、申し込みを受け付けましたが、九州や大阪からも注文がありました。また、このカレンダーは東京青山の「環境パートナーシッププラザ」でも展示販売されました。

レンズを通して観た河北潟

熊倉雅彦

この度の企画はカレンダー用の写真として河北潟の四季を撮影するというものであり、はたして、この河北潟がどのような表情を見せてくれるのか。不安でもあり、楽しみでもあった。土地勘のない私にとっての最初の仕事は撮影ポイント探し。企画担当者である河北潟湖沼研究所の高橋久、川原奈苗両氏の案内でロケハンが開始された。

ひとしきり河北潟を巡って見ての正直な感想は、良くも悪くも非常に雑多な土地であるということ。河川があり、人々の生活空間があり、水田や麦畑、放牧地といったさまざまな農地がありといった具合で、写真の題材には事欠かない撮影地である。

高橋氏の話によれば、未だ多くの野生生物が生息し、彼らにとっての生息環境が残されているとのことだが、場所によっては人工的な手が過剰に加えられ、何か違和感を覚える。その最たるものは湖岸の風景である。本来、水辺の風情は絵や写真のテーマにはもってこいのものであるが、矢板やアスファルトによって直線的に護岸された単調な景色はいかかなものか。当地を訪れる前の皮算用がもののみごとくにうち砕かれた一幕であった。

さらに、撮影を重ねるうちに徐々に気になりだした、というよりも傷害となったのはゴミの多さである。せっかくのフォトジェニックな題材もゴミのために撮影を断念せざるをえなかったケースが多々あったのは、誠に残念であった。カレンダーをご覧になった方はお気づきのことと思うが、風景の一部を切り取った写真が多く、それと比べて広い範囲を写したものが少なかったのは上記の理由による。

さて、撮影に関する恨み辛み的なことを書きつつってしまったが、反面、美しい場面が多かったということも事実である。惜しくも今回のカレンダーの選には漏れてしまったが、ハス田や牧草地など、ぜひご覧いただきたいという写真がいかに多いことか。また、限られた範囲



河北潟を撮影中の熊倉氏、奥は野村卓之氏

とはいうものの、全国的に絶滅が危惧されているコウホネ、アサザ、ミズアオイといった植物が繁殖している様は感動的であった。

ところで「四季の河北潟」を購入して下さった方々の中に、金沢出身の方や河北潟の干拓事業に携わった方がおられたのでお話を聞いてみた。この場をお借りしてご紹介する。「汚いというイメージしか持っていなかった河北潟に、あんなにきれいな場所があったのか。認識を新たにしたい」、「あれだけの（汚い）現状をきれいにまとめてある」という感想のほかに、皆、共通して「全体の写真も欲しかった」と述べている。

歴史的な干拓事業を経て現在の姿となった河北潟。人の手が加えられたために失われてしまったもの。逆に人の手が加えられることによって命を吹き込まれたもの。今の河北潟における両者のバランスは非常に微妙なものであると思える。河北潟に思い入れのある方々の感想ではないが、写真として広い風景を紹介できるよう今後の変遷に期待したい。



「四季の河北潟」で紹介された河北潟の風景

「四季の河北潟」が完成しました。まだ河北潟をあまり訪れたことのない方のために、カレンダーに登場する風景から河北潟の見どころを解説します（編集部 高橋 久）

4月 菜の花とハマダイコンの咲く干拓地



4月の写真には菜の花が映し出されていますが、河北潟干拓地はむしろ春になると薄紅色のハマダイコンが目立ちます。菜の花もまた、負けじと咲き誇ります。ハマダイコンの淡い花びらと菜の花の鮮やかな黄色が対照的で、情緒のある春の風景を作り出します。また、このころの、枯れた茎の間からヨシがぐんぐんと緑の芽を出していく様子や、水路沿いのヤナギが芽を吹き出す様子には瑞々しい美しさがあります。3月下旬から4月いっぱいくらいまでの河北潟はとても気持ちのいい場所です。

6月 麦秋の河北潟



河北潟の広大な干拓地には麦畑が広がっています。秋に蒔かれた麦は寒い冬の間ゆっくりと成長し、春になると一気に穂を出します。6月頃、河北潟干拓地は一面に黄金色の世界が広がります。さわやかな初夏の風が吹き、麦の穂がゆっくりと上下に揺れます。麦畑の傍らに佇み風を受けていると、そこが本州であること、金沢の都心部から30分ほどのところであることを忘れてしまいます。

11月 夕暮れ時の河北潟



夕日が沈むころは河北潟のいちばん美しい時間です。とくに才田大橋からの眺めにはすばらしいものがあります。自動車が時々通過しますが、橋の上から潟を眺めていると、夕日が反射して銀色に光っていた湖面が、だんだんと日が暮れていくにしたがい、紅色さらに紫色が混ざり刻々とした湖面の変化を楽しむことができます。日によっては、夕焼けが美しく空を染め、湖面とのコントラストを醸し出します。やがて内灘砂丘のシルエットが浮かび上がってきます。ぽつぽつと町の灯りがともりだします。静かな静かな河北潟です。

最近の活動

小さいしかわ動物園交流会が開催

小さいしかわ動物園づくり推進交流集会(副題「モニタリング事例とピオトープ活動交流」)は、11月26日(日)13:30より、石川県ふれあい昆虫館(石川県石川郡鶴来町八幡町戎3)においておこなわれました。

石川県内のピオトープ活動6題の事例報告の他にポスターセッションとして、川原奈苗研究員(生物委員会)より、河北潟湖沼研究所が取り組んでいる河北潟干拓地ピオトープ実験池のモニタリング結果についての発表がおこなわれました。その中では、ピオトープ造成によって、アサザやミクリ、キツネやキジなどの多様な生物が見られるようになったこととともに、外来種のウシガエルやアメリカザリガニが増えつつある傾向があることが報告されました。

第16回河北潟自然観察会開催される

第16回河北潟自然観察会がさる2月4日(日)に開催されました。薄曇りの程良い日の光に恵まれ野鳥観察には絶好の天候でした。干拓地内にはまだ雪が残り、雪の上を歩くキジの姿が目立ちました。また、観察中にマガン約200羽の群れが、南の方よりやってきて、河北潟の東方の水田に降り立ちました。

観察会の中で、宇ノ気川と東部承水路の重油の回収状況について確認するために、宇ノ気川河口付近と東部承水路を訪れました。宇ノ気川河口の少し手前の橋の下には、まだオイルフェンスが張られていました。水面にかすかに油膜が確認されましたが、流れ着いている重油はありませんでした。また東部承水路には回収作業に使われたボートや作業の足場が組まれていましたが、重油は、ほとんど確認されませんでした。東部承水路上流付近では丁寧な回収作業がおこなわれ、ほとんどの水面に浮かぶ重油は回収されようです。水辺ではへらブナ釣りをしている人もみられま

した。

なお、今回の観察会の中で、ハマシギと思われる油まみれの野鳥の死体が見つかりました。小規模ながら野鳥への被害があったことがうかがえました。河北潟湖沼研究所生物委員会では今後も調査をおこない、今回の重油流出の野生生物への影響の程度を把握するようにしていきたいと考えています。

ニセアカシア伐採木利用の実験について

かつて内灘砂丘に植林されたニセアカシアは、現在、砂丘の広範囲に林帯を形成しています。最近になって、ニセアカシアの立ち枯れが目立つようになり、砂防林帯の樹種の転換や林帯の再生が課題となっています。森林を管理する石川県では今後、ニセアカシアの伐採を進めることとなっていますが、河北潟湖沼研究所では、その際に出る木材を有効に利用したいと考えています。そこでまずはじめに、ニセアカシアを木炭として利用できないかの研究を始めることとしました。炭焼きを実際におこなって、どれくらいの炭ができるのか、また炭の品質などを調べます。

最初の炭焼き実験は、3月18日から3日間、志賀町安津見町でおこないます。ニセアカシアの炭焼きに興味がある方は、第1回の炭焼きに是非ご参加下さい。また、ニセアカシアの伐採木材の有効な利用法のアイデアを募集しています。詳しくは河北潟湖沼研究所本部(076-286-0433)までお問い合わせ下さい。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

河北潟湖沼研究所通信 VOL.6 NO.3

2001年2月10日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435